

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

令和3年9月1日
(2021)

第122号

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



サルスベリとアリアケカズラ 夏の庭先で

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療 さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

喜び分かち合う『年の祝い』

奄美では、十二支が巡った年齢に数え年でのお祝いを行う風習がある。

そして、今年85歳の年の祝いを迎える入所者さんから「厄払いの意味も込め、年の祝いをしたい」との声を受け、治療棟スタッフによるお祝い大作戦が始動した。

まずは、誕生日と干支を考慮して、一番良い日取りを選ぶ。そして、出身地である徳之島の名曲「ワイド節」を踊り、奄美のお祝いには欠かせない六調を皆で舞う。その後、師長より「感謝状」を贈呈し、徳之島小唄を歌って盛り上げる計画だ。

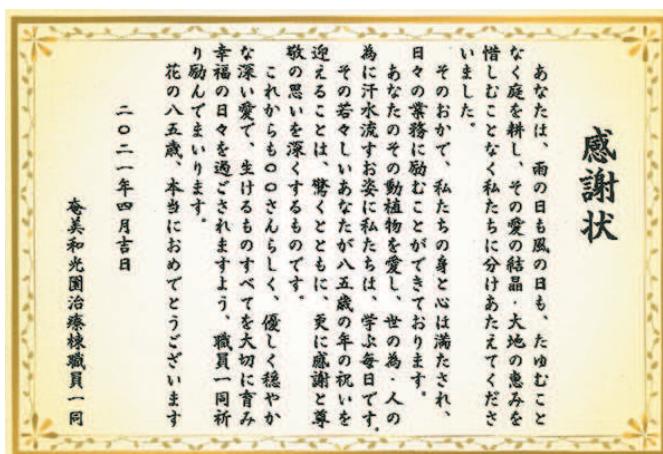
当日は心配された悪天候をみんなの熱いパワーでみごとに払いのけ、ハッピを羽織った職員と今年の干支である黒牛がチヂン

(島太鼓)を打ち鳴らしながら入場。そして毎日練習したワイド節・六調を舞った。師長より感謝状が読み上げられると、入所者さんは少女のようににはにかむ可愛い笑顔で喜んでくださいました。

感謝状にもつづられたように、これからも入所者の皆さんに、優しく穏やかに幸福の日々を過ごされるよう、職員一同祈り励んでいこうと、私たちも決意を新たにする一日となった。

花の85歳、おめでとうございます！

治療棟 介護員 平 正美



♥ 楽しい季節の笑い ♥

端午の節句

♪まさかりかついた金太郎～♪の歌とともにに入所者の部屋へ金太郎に扮した病棟師長と熊の親子、そこになぜか獣師も一緒に現れました。みんなが部屋へ入つてくると入所者のみなさんは大喜びで、いつもとは違って一緒に手拍子や歌を口ずさんでいました。短い時間でしたが、楽しい端午の節句を懐かしんで過ごしました。



天気祭り

ジメジメした梅雨を吹き飛ばして早く天気になるようにと、「てるてる坊主」に扮した3人のスタッフが入所者の部屋へ ゆんきゃぶり(おしゃべり)に行きました。入

所者はてるてる坊主のお化けのような顔を見て、たまがって(驚く)いましたが、最後は笑顔を交わし合いとてもいい「天気祭り」のひとときとなりました。

病棟 介護員 若師 和之



看護師研修

～看護師のモヤモヤ・不満からの宝物探し～

和光園では、中堅看護師としての専門性が求められる中、「私たちが目指すべき看護師像とは何か」「自分のあるべき姿について」と振り返る機会が増えてきました。そこで今回の研修では自分自身と向き合い、部署での葛藤(モヤモヤ)や困難を感じていることを、ゴミ箱の中に自由に吐き出してもらいました。共通する問題テーマについて意見交換する中で、短時間でしたが不満の中にある大切な気づきを発見できました。

グループワークでは総看護師長の助言から6色の旗の視点（受容・事実・批判・感情・希望・冷静）で話すことで、日頃は言

いにくいことをフランクに話すことができたのでみなさんに紹介します。研修生が思い思いに旗を手に持ち、旗に記された視点に沿って考えを深め意見交換をするというものです。「旗を持つと頭が切り換えられた」、「自分の問題は宝物になると気づいた」といった感想も聞かれました。自分の殻をやぶり前向きに考えられるワークを体験し、入所者や和光園のために何ができるか宝物探しができました。

病棟 副看護師長 川畠 恵理

目指すべき看護師像とは るべき姿とは

1. ゴミ箱ワーク

葛藤・困難
モヤモヤ感

ゴミ箱

私の中には
葛藤や不満が
いっぱい

日頃感じている困難感や
葛藤をカードに記載

2. ゴミ箱の中から宝物を見つけ出す

事実 感情 批判的視点

受容的 希望的 冷静な視点

考え方の偏りが
なくなり、
思わぬ対策が
…

グループワークで
意見を言う時に
6色の旗の視点で発言

3. 自分の問題は部署の宝物にチェンジ

なるほど…
そういう考え方
もあるね

私は緑の旗だ
から…
「希望的・創
造的な視点」
で発言すると
○○だと思います

園内感染対策研修 「食中毒予防について」

6月23日「食中毒予防について」をテーマに園内感染予防対策研修を行いました。コロナ禍のため集合型研修は行わず、ICT委員が各職場に赴く職場訪問型研修方式で開催しました。季節的に食中毒が増える時期でもあり、職員のみなさんは興味深く聞いていたようでした。特に興味を持たれたのがアニサキス症による食中毒でした。アニサキス幼虫が寄生している生鮮魚介類を生で食べることで起こる食中毒です。「どんな魚にいるの?」、「季節はあるの?」、「どうやったら防げるの?」など各職場から質問があり、刺身を好んで食べる方も多く、興味ある内容だったようです。今回、食中毒予防がテーマということもあり、初めて保育所でも研修を行いました。野菜や果物の洗浄方法や保存方法、食器洗い用ス

ポンジの交換時期についてなどの質問があり、衛生管理に役立つアドバイスができ良かったと思いました。職場訪問型研修方式は初めての体験でしたが、少人数で行うため集合型よりも気軽に質問や感想を聞けるので良い取り組みだと思いました。

入所者のみなさんを感染症から守るためにも、一人ひとりが食中毒予防の三原則「つけない・増やさない・やっつける」、プラス「持ち込まない」を念頭に殺菌・消毒・手指衛生・環境衛生などの対策を行い、食中毒の感染予防に努めていきましょう。

栄養給食 栄養士 當島 裕美



つけない



増やさない

やっつける

持ち込まない

ハブにご用心

奄美大島はハブの生息地として有名です。猛毒を持つハブですが、ハブを恐れて人がいたずらに山に入らず豊かな自然を残してきたことから、森の守り神とも言われています。しかし、ハブ咬傷の被害は一年を通して発生しており、和光園でも常にハブへの警戒を怠らないよう用心しています。

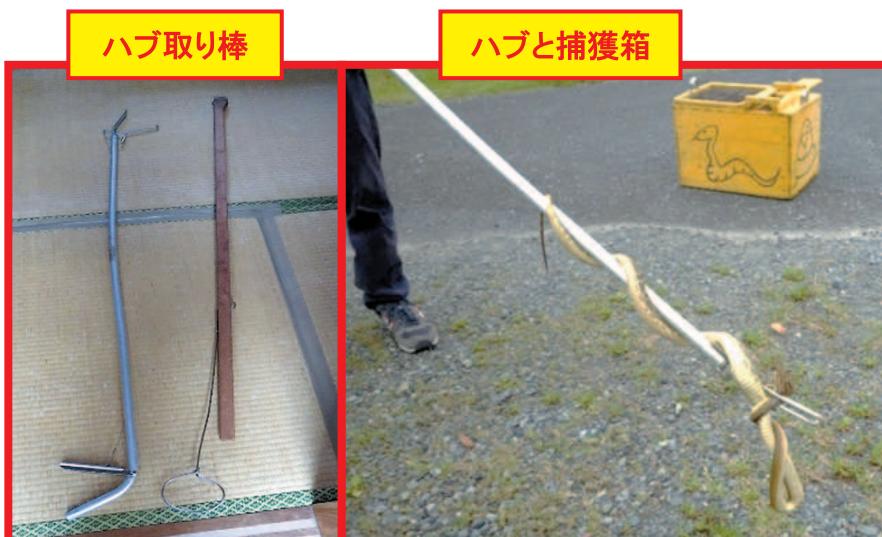
和光園内11カ所にハブ取り棒を設置しています。設置図を提示し園内ラウンドで棒やハブ捕獲箱の場所を確認しました。へ

ビ発見の連絡が入ると、ハブ取り棒を手にハブかどうか現場確認！無毒のアカマタやリュウキュウアオヘビ、毒蛇のヒヤンやガラスヒバアがよく見かけられますが、7月にはハブも捕獲されました。奄美市ではハブ駆除や血清生産のため、生きたハブ1匹3,000円で買い上げています。慣れない職員はヘビとの遭遇だけでも緊張しますが、ヘビの種類を確認して捕獲や除外作業を慎重に行っていきます。

ハブの対応には、みなさん以下の点にご注意ください！

- ①道路の中央を歩く
- ②不用意に草むらに入らず、草むらに入るときは長靴をはき、棒でたたきながら進む
- ③夜は懐中電灯持参
- ④ハブやネズミの隠れ場所となる家の周りの草や木の枝などを刈り、環境整備に努める

医療安全管理室 林 理恵



**ヒヤン
毒蛇**
全長：30～60cm
温和



**ガラスヒバア
毒蛇**
全長：75～110cm
ほつそり、腹面が黄色



**アカマタ
無毒蛇**
全長：80～170cm
大型、気性が荒い



**リュウキュウアオヘビ
無毒蛇**
全長：60～95cm
灰緑色



つながる夏



和光園オリンピック企画

7月！ついに奄美も梅雨明け。東京オリンピックより一足早く和光園初のオリンピックが開催されました。オリンピックに因んだ展示会と、7月8日には和光園聖火リレーが実施されました。とても天気がよく(マスク下で暑すぎるくらいでしたが…)、距離をほどよく保ち、たくさんの入所者や職員のみなさんに参加いただきました。入所者代表による元気いっぱいの選手宣誓で始まり、病棟から不自由者棟、一般舎へとトーチがたすきとともに繋がり、最後は聖火台への点火となり、みごとな炎が立ち上りました。沿道での声援に応えながら伴走者と一緒に走る楽しそうな入所者の笑顔。

最終地点では園長からの金メダル授与に嬉しそうな入所者の笑顔。皆が汗だくでしたが、笑顔溢れるオリンピックになりました。

看護サービス委員として初めての試みで総看護師長発案の楽しいアイデアも満載、企画を担当した私はドキドキしながらこの日を待っていましたが、みなさんの笑顔に救われました。ご協力いただいた入所者のみなさんや職員のみなさんとの“つながる夏”を体験でき感謝します。

病棟 看護師 榮珠美

私たちにとって『入所者の笑顔』は、
金メダル そのものです ❤
看護課一同 (*^o^*)



「和光園歌」とともに国旗掲揚



選手宣誓後－聖火リレースタート！

園長から第一走者へ



チヂンの応援を受けて次のランナーまで「たすき」をつなぎました



園内の沿道では、ソーシャルディスタンスで拍手の応援



みごとに点火し、大成功！



初めての金メダル授与で笑顔いっぱい



職員有志によるオリンピック音頭



入所者のこれまでの人生に“金メダル”を！

和光園オリンピックのオリジナル作品



応援の旗



表彰台と聖火台



聖火リレー
のタスキ



和光園旗・国旗・五輪旗



作成に協力していただいたみなさんへ感謝!



セラ会～奄美の星空に願いを込めて～

奄美大島では旧暦の7月7日（今年は8月14日）に合わせて七夕を飾ります。今年は大きな七夕飾りとは別に、入所者の各居室や自宅の入り口にも小型の七夕を飾りました。輪飾りや吹き流し、金魚やハートなどの色鮮やかな飾りを見て入所者みなさん喜ばれ、ご先祖様への感謝とともに季節の風物詩と一緒に楽しみました。

短冊にはコロナの終息を願う内容のものが一番多く書かれており、みなさんの早く元の生活に戻ってほしいという強い思いが

奄美の星空にも届けられました。

七夕飾り作成、設置などご協力いただいた入所者や職員のみなさん、ときめくひとときに触れることができ本当にありがとうございました。コロナの一日も早い終息と穏やかな日常が戻りますよう心よりお祈り申し上げます。星に願いを込めて。

治療棟 介護員 下川 満



看護課美化プロジェクト始動

看護課美化プロジェクト隊が、外来玄関を中心に清掃活動を行いました。

「外来は園の顔です！」「もっとキレイに！」を合言葉に、まずは不要なものを整理しました。車いすは1台のみ残し、残りは一旦器材庫へと移動。忘れ物の傘を撤去し、一時預かりとして保管。傘立ては置き傘が増えないよう小さいタイプへ変更。

さび付いた傘立てはきれいに洗浄。ゴミ箱も新品へ！ これだけで随分と見た目も変わりました（＾＾）その後、玄関の床磨

きと、外側のタイルを高圧洗浄！梅雨明けの暑い日の中汗だくになり、総師長室を中心とした治療棟、病棟スタッフ、作業班の皆さんのおかげで、長年の汚れやさびの撲滅と、カビ退治のミッション完了！

これからも「チーム和光園」の底力を發揮し、美化活動を継続していきます♪ご協力いただいたみなさんありがとうございました（＾＾）/

病棟 看護師長 坂口 一彦

看護課美化プロジェクト始動

正面玄関



乱雑に置かれていた
車いすや忘れられた傘



苔で滑る地面！



錆びついた椅子



みんなで取り組むと



なんということでしょう!! こんなにきれいに大変身 😊



チーム和光園

ちょっとした奄美の方言入門

内地（＝本土、昔の人は良く使っていた）から来た人は、奄美の方言に戸惑うことが多いと思います。簡単な方言を紹介しますので参考になれば幸いです。

島の中でも地域によって若干言い方が違います。ここでは、瀬戸内方面の言葉になりますかね？！

いろいろ混ざっているかもしれませんがそこはご了承ください。

今日（キュー）、朝（スカマ）、昼（ヒンマ）、夕方（ヨーネ）、いま・現在（ナマ）、あっち（アマ）、こっち（クマ）、あっちこっち（アマクマ）
 私（ワン・ワー）、私たち（ワンキャ・ワーキャ）、あなた（イヤー・ナム・ウラー）、あなたたち（イヤーンキャ・ナーキャ・ウラーキャ）
 老人（ウッチュ）、ばあちゃん（アンマ・バッケ）、子供（ワラベ・クワー）、
 美男子（キュラネセ）、美人（キュラムン）、不美人（バシャヤマ）、
 いぬ（イン）、ねこ（マヤ、ミヤー）、やぎ（ヒンジャ）、ぶた（ウワー）、さかな（イユー）、
 ごきぶり（クンニヤト・ヤマトムシ）、ちょう（ハベラ）など

会話編

こんにちは（ウガミショウラン）

今日は、日差しが強くて暑いですね（キューヤ、テダノ チュースティ イチャサヤー）
 そうですね（ガシ ダリヨンヤー）

今日は、ジメジメしていやですね（キュウヤ、フミイチウラランヤ）

家の中は、涼しいので上がってください（ヤンナハヤ スダシャッド、イリンショレ）

どう、こちらでお茶でも飲んで（ディ、クマナンティ チャアーバ ミショーレ）

ありがとうございます（アリゲッサマアリウタ）



ごめんください（キャオロ）

いらっしゃい、こっちへどうぞ（ウモルイ カン イッヂ コ）

今日は、いい天気になりましたね（キューヤ イイテンキ ナリョウヲタヤ）

おばあさんは、家にいますか？（バッケヤ ヤーナン ウモリンシュリュンヤ）

いや、散歩に出てます（アイ サンポシーガ イジャドー）

もうすぐ もどってきますよ（ナヤーリッガスルバ ムドッテ キユスガ）

お茶でも飲んでまっていれば（チャンキャ ヌデ マチュルイバ）

今日は、痛い所はないですか？（キューヤ、ヤミュントウロヤ、ネンダリヨンナ）

腰が痛いの？（クシノ ヤミュンナ？）、

頭が痛いの？（カマチノ ヤミュンナ？）

お腹の調子が悪いの？（ワタグアイノ ワルサンナ？）

腰は、どうですか？（クシヤ、イキヤシダリヨンナ？）

断定的返答表現だと

腰が痛い！（クシノ ヤディー）

お昼ご飯は、おいしかったですか？（ヒンマバンヤ マーサアティナ？）

おいしかったよ（マーサタド）

おいしくなかったよ（マクネンタド）

どこに行かれたのですか？（ダアハチ ウモティナ？）

お墓参りに行って来たよ（ハカモリシーガ イジャドー）

どこまで行かれたのですか？（ダアガディ ウモティナ？）

ちょっと そこまで（ウレ ウマガディ）

言葉の使い方が少し違っているかもしれませんがそこは、ご勘弁を。

ちょっとした時に入所者のみなさんとの会話に使えるかもしれませんよ。

薬剤科長 佐多 卓也



ハンセン病問題を正しく理解する週間

鹿児島県では厚生労働省が「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」として定めた日（6月22日）を含む日曜日からの1週間を「ハンセン病問題を正しく理解する週間」として定めています。今年の期間は6月20日から6月26日までとなっていました、その期間に奄美市役所においてパネル展示の企画がありました。

パネルは、奄美和光園の歴史に関する写真、入所者自治会からのメッセージ、これまでのふれあい和光塾の様子といったものが展示されました。

ハンセン病問題で生じた感染症への差別・

偏見の歴史が、現代において新型コロナウイルス感染症の流行により再び繰り返されようとしています。平成20年に制定されたハンセン病問題基本法により、元患者の名誉回復を図るとしたハンセン病問題ですが、いまだに全面的な解決には至っていないように、人権問題の解決には長い時間がかかります。このような展示を続けていくことで、問題解決のひとつになればと願っております。

福祉室長 上脇田 勝教



ふれあい和光塾

～今年度
で閉講～

あいにく雨模様の5月22日(土)、講堂にて令和3年度のふれあい和光塾の説明会が行われ、9組の家族が参加されました。例年、開講式としていましたが、今年度は奄美市における新型コロナウイルス感染拡大防止策の最中ということで、説明会として開催されました。

ふれあい和光塾とは、ハンセン病への理解や入所者との交流を目的に、奄美和光園と奄美市教育委員会が園内の畠の一部について無償貸し付けの覚書を交わし、教育委員会が登録した家族にそれぞれ区域を割り当てて、その家族が畠を使用するものです。今年度、説明会として開催した理由としては、奄美市における感染防止対策の最中ということもありますが、もうひとつ大きな理由があります。それは、教育委員会としてのふれあい和光塾の事業は今年度が最後であるということです。これまで17年間にわたり続いてきましたが、和光園入所者

数の減少に伴い、本来の目的である入所者との交流が果たせなくなつたということが一番の要因です。これも時の流れであり、教育委員会の決定についてもやむを得ないものだと園としても考えております。今後については、奄美市と園で協議していくことになってますが、和光塾生からはぜひ来年度以降も畠で作物を育てたいという意見がほとんどのようですので、地域に開かれた農園ということを第一に、園としても今後の利用を考えていきたいと思っております。これまでたくさんの方々がふれあい和光塾を通して入所者と交流を持ち、ハンセン病への理解も進み、すばらしい事業であったと思います。

これまでの奄美市教育委員会の事業運営に心から感謝いたします。

福祉室長 上脇田 勝教

ピーマン



サトイモ



オクラ



ゴーヤ



ナス



新人紹介

福祉・医事係 藤森 恵美子（ふじもり えみこ）

5月より福祉・医事係に入職しました、藤森と申します。昨年、栃木県宇都宮市から移住してきました。コロナ禍で伝統的な行事やイベントになかなか参加出来ませんが、きれいな海と温かい島の方々にいつも癒されています。

ハンセン病、和光園についての歴史や知識を身に着け、一日でも早く仕事に慣れて皆様のお役に立つよう頑張って参ります。どうぞよろしくお願ひ致します。



保育助手 昇 香（のぼり かおり）

今回、あまみ保育園に勤めることになりました、昇香です。子どもたちの健やかな成長を見守りながら、精一杯仕事に取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

福祉室 MSW 町田 亜希（まちだ あき）

みなさま、初めまして。6月から福祉室MSWとして働かせて頂いております、町田亜希と申します。出身は奄美市名瀬です。

入職前は精神保健福祉分野で、人と人とのつながり、特に関係性を意識しながら関わってきました。これまで出逢った方から、「あなたは僕にいかされているんだよ」と言われたことがあります。

自分をいかすには自分自身を知る為に誰かと接しなければ分かりません。

みなさまとの出逢いに感謝し、誰かにいかされているという気持ちを持ちながら少しでも早くみなさまと信頼関係が築けるように頑張りたいと思います。

不慣れな点も多々あると思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



一 奄美和光園の歴史 一

(6) 昭和30(1955)年 第6代園長馬場省仁～昭和32(1957)年 第7代園長大西基四夫、有屋サロン

昭和30(1955)年3月国立療養所駿河療養所から馬場省二(45歳)が着任(第6代園長)、昭和32(1957)年8月国立療養所星塚敬愛園園長の大西基四夫(45歳)が奄美和光園園長に着任(第7代園長)した。大西園長が大規模な星塚敬愛園の園長から小規模でしかも離島の和光園へ赴任を希望した理由は、和光園を本土並みの療養所にしたいとの思いがあったこと¹及び大西園長本人の健康上の理由があった²。



6代 馬場省二

在任期間
昭和30年3月1日～
昭和32年8月30日



7代 大西基四夫

在任期間
昭和32年8月31日～
昭和44年4月1日

大西園長は、歴代最長約12年間園長を務めた。大西園長の妻 大西ヒサ(旧姓:光田ヒサ)も医師であり、名瀬市内のカトリック診療所で昭和33年1月から約11年間の長きわたり、無報酬で診療所につとめ一般島民の治療に専念した³。



▲名瀬カトリック診療所で診療中の大西ヒサ所長（1962年頃）

大西園長が和光園へ赴任した翌月の昭和32(1957)年9月、小笠原登先生(69歳)が第6代馬場園長の懇請に応じて和光園へ赴任した⁴。小笠原先生は、「ハンセン病は不治の疾患ではなく、強制隔離の必要もない。」と、当時の隔離政策を推し進める軍部に反対を唱え続けた大学派の医師である⁵。大西園長は光田健輔⁶の娘ヒサを妻に迎え、姉富美子の夫が林文雄(星塚敬愛園初代園長)であるため、療養所派⁷と深いかかわりがある。大西園長は、大学派⁸である小笠原先生が自由に患者診療に当たられるように特別診療室を設け、礼を尽くした⁹。

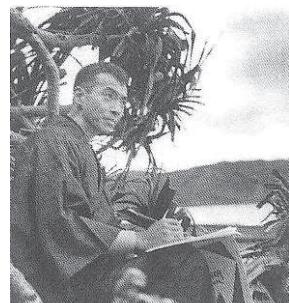
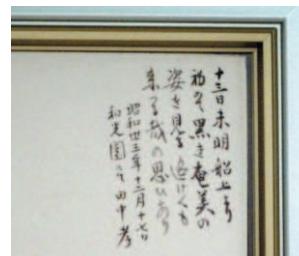


小笠原登



光田健輔
一八七六年一九六四年。
山口県生まれ。東京市養育院、全生
病院長を経て長島愛生園長を勤めた。
日本のハンセン病医療行政の中心的
役割をはたした。

昭和33(1958)年12月、田中孝(一村)が亀谷敏夫氏(厚生省九州医務局次長)の紹介状を携えて和光園を訪れ、翌年秋ごろに小笠原先生の宿舎に寄宿した¹⁰。田中が和光園を訪れた時に署名した和光園芳名録の原本は、鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館に寄託されており、レプリカが和光園応接室に展示してある。



田中一村

真宗大谷派の小笠原登先生と福田恵照住職、クリスチャンの松原若安事務長、俳句、短歌、詩の創作活動を行っている中村民郎放射線技師長に日本画家の田中を加えた5人の語らいが、ある時期、毎晩のように行われた。のちに、この5人の語らいのことを、美術評論家の大矢鞆音氏は「有屋サロン」と名付けている¹¹。



福田恵照 住職



松原若安 事務長



中村民郎 放射線技師長

福祉係(学芸員) 岩辻 好夫

- 1 創立70周年記念誌 国立療養所奄美和光園 平成25年(2013), 平成27年3月発行, P144
- 2 星塚敬愛園創立70周年記念誌, 2005年, P8, 9, 10
- 3 カトリック奄美100年 奄美福音宣教100周年記念誌, 1992年3月22日発行, P92, 96, 110, 187
- 4 創立70周年記念誌 国立療養所奄美和光園 平成25年(2013), 平成27年3月発行, P164
- 5 創立70周年記念誌 国立療養所奄美和光園 平成25年(2013), 平成27年3月発行, P120
- 6 光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン療養所の五〇年, 1993年8月10日発行, P17

- 7 “優生保護法下で生まれたハンセン病患者の子どもたち:その人物史的考察のための予備的研究, 2012.3, 名寄市立大学社会福祉学科研究紀要, 濱戸裕二”, P26, 27
- 8 同上P26
- 9 創立70周年記念誌 国立療養所奄美和光園 平成25年(2013), 平成27年3月発行, P119, 164
- 10 評伝 田中一村, 平成30年9月11日, 株式会社生活の友社, 大矢鞆音, P403
- 11 評伝 田中一村, 平成30年9月11日, 株式会社生活の友社, 大矢鞆音, P421, 422, 423

前回「(5) 昭和21(1946)年米軍政府統治～昭和28(1953)年奄美群島日本復帰」訂正



右中央に写っているのが、
未感染児保育所(育葉寮)です。

前号「和光園の歴史(5)」において、写真が誤っていましたので、お詫びして訂正いたします。



沖縄の嘉手納航空隊有志からの
クリスマスプレゼント
(昭和29年1月)

NST News Letter

No.18

『長期間にわたるマスクの着用で生じる影響とその対策』

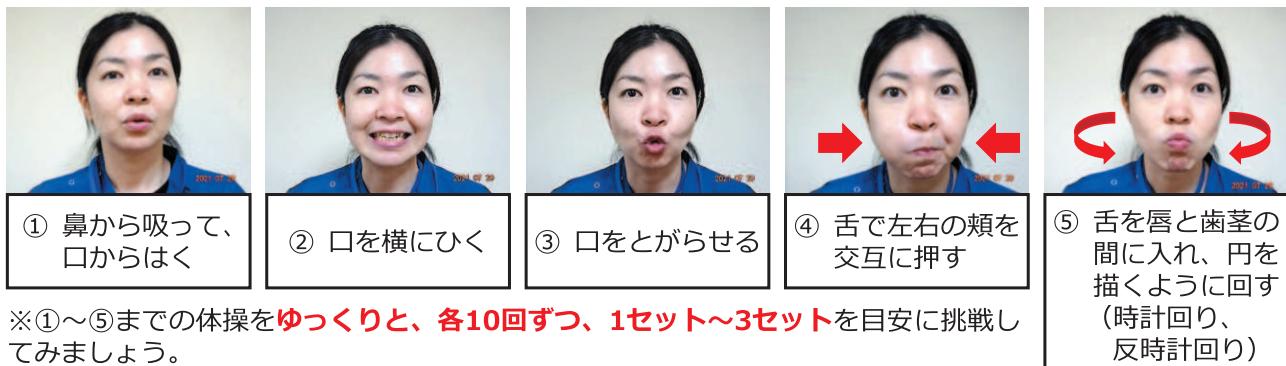
コロナ禍も2年目に突入し、新しい生活様式が浸透して、日常的に「手洗い・マスクの着用」「一定の距離をとる（ソーシャルディスタンス）」「密閉・密集を避ける」などの行動が習慣化されました。

マスクをしていると、息苦しさから口呼吸になりやすく、集中力が低下したりお口の中が乾燥することがあります。唾液量が減少するとお口の中の細菌が増え、口臭が強くなる、むし歯や歯周病のリスクが高くなる、誤嚥性肺炎などを起こす可能性があります。また、顔が隠れている安心感から表情筋を動かさなくなり、口角が下がり、頬のたるみやしわ、ほうれい線が目立つてくる方もいます。



このように、日常的なマスクの着用により**口呼吸**となることで、「**集中力の低下**」や「**表情筋の衰え**」、「**口の筋力低下**」、「**免疫力の低下**」など心身の不調に繋がってきます。現在は、身近な人との交流も減っており、話す機会もおのずと少なくなっています。お口の機能が低下することで、口呼吸を助長するという報告もあります。そこで今回は、**感染対策に配慮しつつ、マスクを着用していてもコソッと実践できる口腔体操**をご紹介します。

マスクを着用していてもできる口腔体操



風邪や副鼻腔炎などで鼻詰まりのある方は、無理のない範囲で鼻呼吸を取り入れてみてください。

今回は口腔体操をご紹介しましたが、お口の機能の維持に向けては、**身近な人と会話する、新聞などの文章を音読する**などの方法も効果があります。お口の健康は全身の健康に繋がりますので、普段の生活の中でご自身に合った方法を取り入れてみてはいかがでしょうか。

最後に、和光園には**言語聴覚士**や**歯科衛**

生士などお口の専門スタッフがおり、入所者みなさんの「**食べる**」「**話す**」ことのお手伝いができればと思います。今後ともよろしくお願ひいたします。



リハビリテーション室

言語聴覚士 田中 久美子

令和3年度 診療統計

	外来診療					特記		入院診療		
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均(人)	診療実日数(日)	紫外線療法(件)	手術/生検(件)	入院(人)	退院(人)	延患者数(人)
4月	103	277	380	29.2	13	64	8	0	0	0
5月	85	245	330	30.0	11	52	3	0	0	0
6月	131	277	408	31.4	13	67	7	0	0	0
7月	108	259	367	30.6	12	64	5	0	0	0
8月	135	263	398	30.6	13	54	5	1	1	5

人事異動

(令和3年5月1日～令和3年8月31日)

R 3. 5. 6	藤森 恵美子 昇 香	事務補佐員（非常勤） 保育助手（非常勤）	採用
R 3. 5. 25	赤尾 優子	看護師	育児休業
R 3. 5. 27	則岡 静香	看護師	育児休業
R 3. 5. 31	宝村 優希	事務助手（期間業務職員）	辞職
R 3. 6. 1	町田 亜希 宝村 優希	医療社会事業専門員 事務補佐員（非常勤）	採用

和光園日誌

(令和3年5月1日～令和3年8月31日)

- R 3. 5. 22 ふれあい和光塾開講
 6. 16・17 職員健康診断
 7. 1～ オリンピック展覧会（～9.5）
 7. 7 BLS研修（第1回）
 7. 8 聖火リレーマラソン
 8. 4 BLS研修（第2回）
 8. 12～23 七夕会

編

集

後

記

新型コロナウイルス流行により奄美の夏祭りやいろいろな行事が中止となり、和光園の行事も中止が続いている。そんなコロナ禍の中で開催された57年ぶり2度目の東京オリンピック。和光園でも職員がオリンピックにまつわる展示物を作成し、入所者みなさんとの聖火リレーで大いに盛り上がりました。

連日繰り広げられる熱戦にテレビのリモコン片手に次の競技はここ、次の競技はこことチャンネル変えて大忙しでした。柔道男子の第1号金メダルに始まり兄妹そろっての金メダル、女子水泳初の2冠達成など感動の夏でした。只今パラリンピックを応援中！

まだまだ暑い日は続きますが、これからも新型コロナウイルス予防と熱中症に気をつけて元気に過ごしていきましょう。1日も早く新型コロナウイルス流行が終息することを願います。

編集委員 當島 悟史